

朝霞市 次世代育成支援に関するニーズ調査

報 告 書

平成16年 3月

朝 霞 市

< 目 次 >

. 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 調査結果の見方	1
. 調査結果の概略	2
< 就学前児童の保護者 >	2
< 小学校児童の保護者 >	7
. 調査結果の分析	12
< 就学前児童の保護者 >	12
1. 家族状況	12
2. お子さんの食事について	15
3. 平日保育の利用希望	17
4. 平日の保育状況	22
5. 土・日の保育希望	36
6. 病気の時の対応	40
7. 一時預かりについて	43
8. 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向	48
9. 一時的保育事業等に関する意向	51
10. ファミリー・サポート・センター事業	53
11. サービスの満足度	55
12. 子育てに関する悩みや不安感	56
13. 悩みの相談相手	60
14. 子育てに関する情報の入手方法	61
15. 自主的な活動への参加状況	62
16. 子どもの遊び場	63
17. 外出の際困ること	64
18. 行政サービスへの要望	65

< 小学校児童の保護者 >	67
1. 家族状況	67
2. お子さんの食事について	70
3. 放課後児童クラブの利用希望	72
4. 放課後児童クラブの利用状況	76
5. 放課後児童健全育成事業への要望	80
6. 一時預かりについて	81
7. 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向	83
8. ファミリー・サポート・センター事業	87
9. 子どもの居場所	88
10. 児童館について	90
11. 子どもの地域活動への参加状況	91
12. サービスの満足度	92
13. 子育てに関する悩みや不安感	93
14. 悩みの相談相手	97
15. 子育てに関する情報の入手方法	98
16. 自主的な活動への参加状況	99
17. 子どもの遊び場	100
18. 外出の際困ること	101
19. 行政サービスへの要望	102
< 自由意見 >	104
1. 就学前児童の保護者	104
2. 小学校児童の保護者	109
実施二一ズ調査票	115
< 就学前児童用 >	115
< 小学校児童用 >	137

調査概要

1. 調査目的

朝霞市では、平成11年3月に「21世紀にかがやく子どもたちへ」をテーマに、行政をはじめ、企業、地域社会などが取り組むべき方向を示す「朝霞市エンゼルプラン」を策定しました。しかし、平成15年7月に次世代育成支援対策推進法が制定され、全国の地方自治体に平成17年度を初年度とした次世代育成支援のための行動計画を策定することが義務付けられました。

行動計画を策定するにあたっては、住民の意向を十分に反映することが求められていることから、本市においても行動計画策定に向けて住民の子育て支援に関する生活実態やご意見・ご要望などを把握するべく「朝霞市次世代育成支援に関するニーズ調査」を実施したところです。

2. 調査設計

(1) 調査地域	朝霞市 全域
(2) 調査対象	朝霞市在住の就学前児童及び小学校全学年児童
(3) 対象者数	就学前児童：2,000人 小学校児童：1,000人（低学年児童：500人 高学年児童：500人） 合計：3,000人
(4) 抽出方法	無作為抽出
(5) 調査方法	郵送配布・回収方式
(6) 調査期間	平成16年1月

3. 回収結果

	就学前児童	小学校全学年児童
(1) 発送数	2,000	1,000
(2) 有効回答	1,275	629
(3) 回収率	63.8%	62.9%

4. 調査結果の見方

- (1) 回答の比率は、有効回答数を基数(N)としています。限定質問への回答については該当数を基数(n)としています。
- (2) 百分率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。そのため、合計は100.0%にならないことがあります。
- (3) 質問の回答が複数回答の場合、比率の合計は100.0%を超えることがあります。
- (4) 回答の選択肢は、文意に留意しながら簡略化している場合があります。

調査結果の概略

< 就学前児童の保護者 >

1. 家族状況

0歳から5歳までの就学前児童の世帯の子ども的人数は、1人子が46.7%、2人兄弟姉妹が45.1%で、合わせて9割以上となっています。祖母との同居や祖父との同居は、いずれも1割以下となっています。どもの身の回りの世話を主にみているのは、母親であり98.0%になっています。

2. お子さんの食事について

食事の摂り方は、約5割の子どもに心配されることがあり、「落ち着いて食べない」「好き嫌いが多い」「むら食い」の順となっています。子どもの朝食の摂り方についてみると、約9割が毎日摂っています。誰と食事をしているかについては、朝食が「母親と食べる」が約4割で最も多く、夕食も、「母親と食べる」が約4割で最も多くなっています。

3. 平日保育の利用希望

平日の保育サービスの利用希望は、約6割の保護者が持っており、平日毎日希望し、時間帯は9時台から15時台にかけての希望が多くなっています。

預けたい理由として、現在就労しているか、就労を考えていることが多くの割合を占めています。希望する保育サービスは、保育園と幼稚園で約9割となっています。

4. 平日保育の保育状況

就学前児童は、45.2%が保育サービスなどを利用したり親族・知人に預けており、46.7%が保育サービスを利用せず、親族・知人にも預けていません。

保育サービス利用者のうち、約8割が保育園または幼稚園を利用しており、利用日は週5日が95.6%となっています。保育園と幼稚園とを比較しますと、およそ3人に1人が保育園、3人に2人が幼稚園に通っています。幼稚園利用者の今後の利用意向は、「今のままがよい」が95.6%となっています。

保育園や幼稚園以外もしくはそれらと併用して他のサービスを利用する方は約1割であり、併用する保育サービスは指定家庭保育室が最も多くなっており、勤務先の保育施設も利用されています。

5. 土・日の保育希望

土曜日の保育サービス利用希望は約2割となっており、日曜日・祝日の保育サービスの利用希望は、約1割となっています。

6. 病気の時の対応

この1年間に子どもが病気になって保育施設を休まなければならなかったことが「あった」人は、約8割と多くなっています。

その場合の対処方法は、「父親または母親が仕事を休んだ」が47.1%と最も多く、「就労していない保護者が自宅で面倒をみた」が44.4%と多くなっています。その他の方法では、「(同居者を含む)親族や知人に預けた」が、25.2%となっています。

7. 一時預かりについて

この1年間に子どもの主な保護者が、平日、土曜日、日曜日、祝日に関係なく冠婚葬祭などの緊急の用事で子どもの面倒を見られなくなったことは、約5割の保護者が「あった」と回答しています。

その場合の対処方法として多いのは、「(同居者を含む)親族や知人に預けた」が64.1%、「配偶者が面倒をみた」が55.6%となっています。対処方法には約5割の保護者が困難さを伴う、と回答しています。

次に、この1年間に保護者の用事などで、子どもを泊りがけで家族以外に預けざるを得なくなったことがあったのは、回答者の約1割でした。この場合の対処方法は、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が95.3%となっており、約5割の人が困難さがあった、と回答しています。

8. 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向

「母親学級、両親学級、育児学級」、「保健センターの情報・相談サービス」、「家庭教育に関する学級・講座」、「教育相談センター・教育相談室」、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」、「つどいの広場」、「子育て支援センター」、「児童館」、「ファミリー・サポート・センター」、「家庭児童相談室」の10項目について、それぞれ認知度、利用経験、今後の利用意向をうかがいました。

10項目のうち、認知度、利用率、利用意向の全てで6割を越えたのは、「児童館」でした。「母親学級、両親学級、育児学級」は、認知度は高いのですが、利用率、今後の利用意向と徐々に数値が低くなっています。

その他のサービスについては、利用率は低くても、利用意向はそれ以上に高くなっているこ

とが共通点となっています。

9. 一時的保育事業等に関する意向

約6割の保護者が、子どもを家族や親族以外に預けて「リフレッシュしたい」と回答しています。保護者の預かり希望の日数は、1ヶ月当たり1～2日であり、1回当たりの預かり時間は、約9割の保護者が8時間以内と回答しています。

子どもの病期中や病気回復期に利用したいサービスでは、「医療機関の専用スペースで子どもを預かってくれるサービス」が約5割で最も望まれるものとなっています。

10. ファミリー・サポート・センター事業

利用したい場合としては、「保護者の病気などの際の預かり」が約6割、「保護者の用事などで一時的に外出する場合の預かり」が約5割を示しています。

料金については、「高い」という回答が48.1%、「どちらともいえない」が、45.3%となっています。

11. サービスの満足度

現在、通っている保育園、幼稚園、指定家庭保育室等について「施設・環境」、「職員などの配置状況」、「子どもへの接し方・日常の遊び」、「行事」、「食事」、「病気やケガの時の対応」、「保護者への情報伝達」、「悩みごとなどへの相談対応」、「保護者の要望・意見への対応」、「利用者間のネットワークづくり」、「安全対策」、「衛生対策」の12項目についてお尋ねし、それぞれについて“大変満足”“ほぼ満足”“やや不満”“大変不満”から選んでいただきました。

すべての項目で、“ほぼ満足”が最も多くなっています。次に多いのが“大変満足”である項目と“やや不満”である項目とに分かれています。“大変不満”は、全ての項目で3%以下となっています。

12. 子育てに関する悩みや不安感

子育てに関して約5割の保護者が、何らかの不安や負担を感じるという結果になっています。

不安や悩みの内容について多いのは「仕事や自分のやりたいことが十分できないこと」、「子どもを叱りすぎているような気がする」、「食事や栄養に関する事」、「病気や発育・発達に関する事」、「子どもの教育に関する事」の5項目となっています。

特に不安なこと、悩んでいることとして最も多かったのは「自分の自由な時間が持てない」こととなっています。

仕事と育児を両立させる上で大変なことで最も多かったのは、「自分が病気けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」こととなっています。

13．悩みの相談相手

悩みの相談相手としては、「配偶者・パートナー」¹、「その他の親族」²、「隣近所の人、地域の知人、友人」³が、それぞれ7割以上の高い数値になっています。

それ以外では、「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」⁴が約3割、「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」⁵が約2割となっています。

14．子育てに関する情報の入手方法

「隣近所の人、知人、友人」¹が約8割で最も多く、「親族(親・きょうだい)」²が約6割、「子育て雑誌・育児書」³が約4割となっています。

それ以外では、「市の広報やパンフレット」⁴「保育園、幼稚園、学校」⁵「テレビ、ラジオ、新聞」⁶などが情報入手先となっています。

15．自主的な活動への参加状況

子育てに関するサークルなど、自主的な活動への参加状況については、「現在参加している」人は15.6%であり、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」という方も約4割います。

自主活動をするにあたり、行政に行って欲しい支援は、「活動場所の提供」¹がもっとも多く、約6割になっています。

16．子どもの遊び場

家の近くの遊び場については、「雨の日に遊べる場所がない」との回答が最も多く、約5割の方が感じています。それ以外では「近くに遊び場がない」¹、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」²、「遊具などの種類が充実していない」³、「遊び場の周辺の道路が危険である」⁴などとなっています。

17．外出の際困ること

子どもと外出する際、困ること・困ったことでは、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」¹、「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」²、「歩道の段

差などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと」などの回答が多くなっています。

18．行政サービスへの要望

出産・育児に関する行政窓口や公的機関の担当者の対応について不満に思ったことは、約2割の方が「ある」、約6割の方が「ない」と回答しています。

不満を感じた点では、「対応が不親切」が最も多く、「手続きが煩雑で時間がかかる」がそれに次いで多くなっています。

市に期待する子育て支援については、「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備して欲しい」などとなっています。

また、朝霞市は出産・子育てに適したまちだと思いますか、という問に対して「そう思う」が3.8%、「大体そう思う」が23.1%となっています。

19．自由意見

保育園の待機児の解消および保育園の少なさを指摘する意見が多く見受けられました。朝霞市の人口動態の特徴やまちの現状を踏まえて要望する人もいました。

その他、保育料への経済援助の要望や、児童館の充実・増設の要望、歩道の整備などについての意見や要望が多くなっています。

< 小学校児童の保護者 >

1 . 家族状況

小学校1年生から6年生までの児童の世帯の約6割が2人兄弟姉妹であり、3人兄弟姉妹と1人子の世帯はそれぞれ約2割になっています。祖母との同居は16.2%、祖父との同居は11.4%になっています。

子どもの身の回りの世話を主にみているのは、母親であり97.1%となっています。

2 . お子さんの食事について

食事の摂り方については、約4割の子どもに心配されることがある、となっています。

朝食は、約9割の子どもが毎日摂っています。

誰と食事をしているかについては、朝食が「兄弟姉妹と食べる」が約3割で最も多く、夕食は「家族全員と食べる」が約4割で最も多くなっています。

3 . 放課後児童クラブの利用希望

平日の放課後児童クラブの利用希望は、約8割の保護者が持っていません。時間帯については、5割を超える保護者が14時台から18時までを希望しています。利用希望の理由としては、「現在就労している」ことが約7割で最も多く、次いで、「そのうち就労したいと考えている」ことが、約1割となっています。

土曜日については、約8割が「利用希望はない」となっています。

4 . 放課後児童クラブの利用状況

放課後児童クラブの現在の利用状況は、「利用している」が8.6%、「利用していない」が72.5%となっています。

平日に利用している方の約9割が、週4日以上の利用となっており、利用時間帯で6割を超えているのは、14時台から17時までとなっています。

土曜日は、約7割が「利用していない」と回答しています。

5. 放課後児童健全育成事業への要望

現在、通っている放課後児童クラブに対して感じていることは、「利用できる学年を延長して欲しい」が約7割で最も多くなっています。延長希望の学年では「4年生まで」が約6割、次いで「6年生まで」が約3割となっています。

6. 一時預かりについて

この1年間に保護者の用事などで、お子さんを泊りがけで家族以外に預けたことが「あった」人は15.1%となっています。その場合の対処方法では「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が、約9割と最も多く、その困難度は約4割となっています。

7. 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向

「母親学級、両親学級、育児学級」,「保健センターの情報・相談サービス」,「家庭教育に関する学級・講座」,「教育相談センター・教育相談室」,「保育園や幼稚園の園庭等の開放」,「つどいの広場」,「子育て支援センター」,「児童館」,「ファミリー・サポート・センター」,「家庭児童相談室」の10項目について、それぞれ認知度、利用経験、今後の利用意向をうかがいました。

10項目のうち、認知度、利用率、利用意向の全てが7割を越えたのは、「児童館」でした。その他のサービスについては、利用率は低くても、利用意向はそれ以上に高くなっていることが共通点となっています。

8. ファミリー・サポート・センター事業

ファミリー・サポート・センターを利用したい場合としては、「保護者の病気などの際の預かり」が約4割、「保護者の用事などで一時的に外出する場合の預かり」が約3割を示しています。

料金については、「高い」という回答が約4割を占め、「どちらともいえない」という回答も、約5割ありました。

9. 子どもの居場所

子どもの平日の放課後の過ごし方は、14~16時は「学校にいた」が約6割で最も多く、次いで「公園などで友達と遊んでいた」が約1割となっています。16~18時は「保護者や祖父母等の家族・親族(おとな)と過ごした」が約3割、次いで「学習塾や習い事に行っていた」が約2割となっています。18~20時は「保護者や祖父母等の家族・親族(おとな)と過ごした」が約8割、次いで「学習塾や習い事に行っていた」が5.7%となっています。20時以降は「保護

者や祖父母等の家族・親族（おとな）と過ごした」が約9割となっています。

身近な地域で子ども同士の交流の場として望ましいものは、「子どもが放課後などに集まって、子ども同士で自主活動などができる場」が約7割と最も多くなっています。

10．児童館について

子どもがよく利用する公共施設では、公園が約7割で最も多く、次に図書館が約5割、そして児童館が約3割となっています。児童館を利用しない理由としては、「利用したいが近くにならぬから」が最も多くなっています。

11．子どもの地域活動への参加状況

参加経験は、4割以上の子どもが持っており、約3割が「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」と回答しています。

参加したことがある、もしくは今後参加させたい地域活動やグループ活動は、「スポーツ活動」、「文化・音楽活動」、「キャンプ等の野外活動」などとなっています。

12．サービスの満足感

放課後児童クラブの満足度について「施設の広さ・設備」、「施設周辺の環境」、「子どもの数に対する指導員の人数・配置」、「子どもへの接し方・日常の遊び」、「行事の内容」、「おやつ」、「病気やケガの時の対応・連絡」、「悩みごとなどへの相談対応」、「指導員とのコミュニケーション」、「施設の安全対策（セキュリティ）」の10項目についてお尋ねし、それぞれについて“大変満足”“ほぼ満足”“やや不満”“大変不満”から選んでいただきました。

すべての項目で、“ほぼ満足”が最も多くなっています。次いで多いのは、5項目で“やや不満”、5項目で“大変満足”と分かれる結果となっています。

項目別では、「行事の内容」の満足度が最も高く、「施設の広さ・設備」の満足度が最も低くなっています。

13．子育てに関する悩みや不安感

保護者の約5割が、何らかの不安や負担を感じているという結果になっています。

不安や悩みの内容で多いのは、「子どもの教育に関すること」、「友だちづきあい（いじめ等を含む）」、「子どもを叱りすぎているような気がする」の3項目となっています。

特に不安なこと、悩んでいることでは、「子育てで出費がかさむ」ことが約4割で最も多く、次いで「住居が狭い」、「自分の自由な時間が持てない」などとなっています。

仕事と子育てを両立させる上で大変なことでは、「自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が約5割で最も多くなっています。

14．悩みの相談相手

悩みや不安の相談相手で多いのは「配偶者・パートナー」「隣近所の人、地域の知人、友人」「その他の親族（親・きょうだいなど）」となっています。

15．子育てに関する情報の入手方法

子育てに関する情報の入手先として多いのは「隣近所の人、知人、友人」「親族（親・きょうだいなど）」「保育園、幼稚園、学校」となっています。

16．自主的な活動への参加状況

「現在参加している」が6.8%、「現在は参加していないが、今後参加機会があれば参加したい」が21.0%とやや少なくなっています。

自主活動していくにあたり、行政に行って欲しい支援で最も多いのは、「活動場所の提供（場所貸しなど）」となっています。

17．子どもの遊び場

子どもの遊び場では、「雨の日に遊べる場所がない」が約6割で最も多くなっています。次に「思い切り遊ぶために十分な広さがない」が約4割となっています。

18．外出の際困ること

子どもと外出の際、困ること・困ったことでは「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である」が最も多く、次いで「歩道や信号がない通りが多く、安全に心配があること」「緑や広い歩道が少ない等、まちなみにゆとりとうるおいがない」となっています。

19．行政サービスへの要望

出産・育児に関する行政窓口や公的機関の担当者の対応について不満に思ったことは、「ある」が約2割となっており、不満を感じた点で最も多いのは、「対応が不親切」となっています。

市に期待する子育て支援の充実については、「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備して欲しい」「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい」「児童館など、親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会が欲しい」などとなっています。

また、朝霞市は出産・子育てに適したまちだと思いますか、という問に対して「そう思う」が3.8%、「大体そう思う」が19.9%となっています。

20. 自由意見

遊び場や公園の増設・確保や児童館の増設ないし近くにないことの不便を述べられたものや、ボール遊びができるような広い遊び場が欲しいというものが多く見受けられました。